

第33回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザーボード 議事要旨

1 日時：令和3年1月22日（金）14:00～16:00

2 開催方法：WEB会議

3 出席者：（委員）

◎黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）

○戸谷 好秀（独立行政法人統計センター特別参与）

兼川 真紀（弁護士）

亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）

齋藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）

名越 健郎（拓殖大学海外事情研究所教授）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

加瀬 徳幸 官房審議官

山口 真矢 管理室長

4 議事次第

- ・令和3年度平和祈念展示資料館の運營業務委託の概要について
- ・令和2年度平和祈念展示資料館運營業務実施（見込み）報告について
- ・令和3年度平和祈念展示資料館運營業務計画について

5 議事要旨

令和3年度平和祈念展示資料館の運營業務委託の概要について事務局から説明。続いて、令和2年度平和祈念展示資料館運營業務実施（見込み）報告及び、令和3年度平和祈念展示資料館運營業務計画について委託業者から説明。その後、質疑応答が行われ、最後に意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 資料館の運営においては、来館者への対応を含め、新型コロナウイルス感染対策に十分に留意した運営をお願いしたい。
- VR制作には時間がかかるので無理をせずやってほしい。VR制作はコロナ対策の一つになるだろう。

- VR 資料館では、前提となる知識を提供しないと分かりにくいのではないか。
- VR 資料館では、CG も併せて使うことでリアリティも増すので、若い人の関心を引付けられるだろう。
- QR コードによる展示解説の多言語化に関して、英語だけでなく、中国語、韓国語などの翻訳も引き続き検討していただきたい。
- オンライン発信、デジタル化に力を入れて、充実させていただきたい。その中で、オンライン配信コンテンツには、字幕スーパーを入れるなどの対応・工夫もあるとよいのではないか。
- YouTube などのコンテンツには、手話通訳を入れることなども検討してよいのではないか。
- Facebook は、高齢者の方にも利用者が多いので、活用した方がよいだろう。
- オンラインも便利でよいが、実物資料はインパクトがあり、実物資料を見ることの意味は失わないので、引き続き資料の管理、収集に努力していただきたい。
- コロナ禍では Web 公開なども大事だが、資料館としては次世代に伝えていくことが最も大事な仕事なので、この機会にアーカイブの蓄積、充実に力を入れていただきたい。
- 戦後 75 年が過ぎ、もはや最後の機会でもあるので、有名人の証言だけでなく、無名の人々の証言をできる限り残すことを検討していただきたい。